

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 194人	社会 193人	数学 193人
	理科 193人	英語 194人	

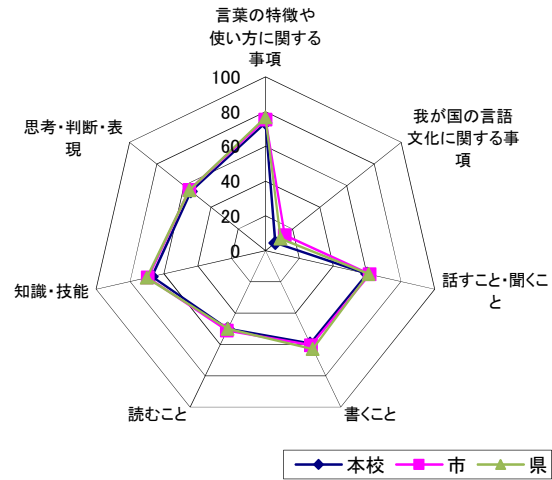
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.6	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	7.2	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	60.1	61.6	60.9
	書くこと	59.4	60.4	62.9
	読むこと	49.9	51.0	49.9
観点	知識・技能	67.0	69.4	70.1
	思考・判断・表現	54.8	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

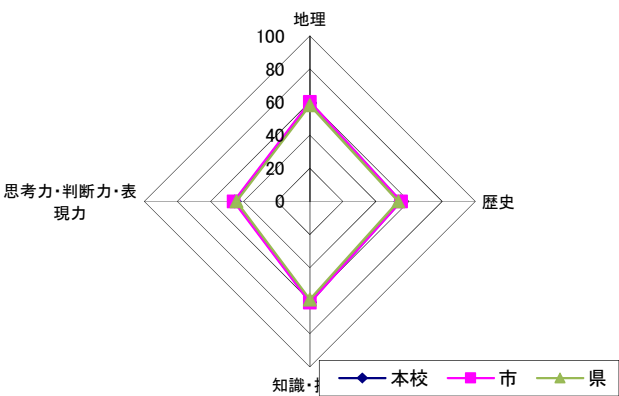
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○故事成語の問題の正答率が市平均より2%高かった。 ●単語の分類や文節に分ける問題が市平均より低かった。	まず漢字の正答率は市平均より高いものも低いものもあった。漢字テスト等での漢字も常用漢字として覚えられよう指導していく。文法については今後の単元でそれぞれの性質を細かく学習していくので、既習事項を復習しながら進めていく。入試問題も解きながら、苦手項目の克服を支援していく。
我が国の言語文化に関する事項	●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率が市平均より7.1%低かった。	古文に触れる機会も少なく、隔年で学習する古典文学の中で再度学習させる。中学校における古典文学の学習では文章を読めることが大切なことを念頭に置き、知的好奇心が高まるような指導をする。
話すこと・聞くこと	○話し手の話し方として適するものを選ぶ問題の正答率が市平均より1%高かった。 ●話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかをみる発問の正答率が4.4%市平均より低かった。	話の展開を捉えること、会話の中から条件に従って自分の考えを書く問いの正答率が低かったことから、①内容を理解する②理解したうえで自分の考えを明確にする力が今後必要である。 会話の展開で要点を捉える力を補える聞き取りの問題や、自分の考えを表現する意見文などを授業の中で行う。
書くこと	○AとBのポスターのどちらのほうが観光客を呼ぶことができると思うか、自分の考えとその理由を第2段落に書く発問の正答率が市平均より0.4%高かった。 ●AとBのポスターの特徴をそれぞれ読み取り、第1段落に文章を書く問いでは市平均より1.7%低かった	話すこと・聞くこととの関連で話の内容や、読み取ったことを踏まえて自分の考えを表現することが全体的に低いことがわかる。自分で選択して書くことについては表現できるが、条件が限定される、または内容に合うように表現することが難しい現状である。条件作文など、条件下のなかでの意見文を授業で取り入れて指導する。
読むこと	○登場人物の行動や心情を時間の流れに沿って並べ替えて書く発問では市平均より4.8%正答率が高かった。 ●文章の内容を説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く発問の正答率が市平均より6.4%低かった。	文章の内容理解は市平均より高い項目が多かった。上記の話すこと・聞くこと、書くことの中においても読み取った内容を踏まえて表現することを苦手にする生徒が多いように感じる。登場人物の心情を捉えることはできるが、それを自分の言葉にすることが難しいため、考え、自分の言葉で表現する活動を授業の中で実践していく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	59.6	60.1	58.1
	歴史	55.0	55.1	53.5
観点	知識・技能	60.9	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	45.3	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

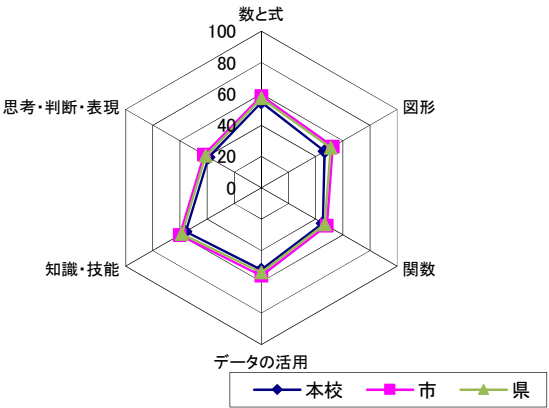
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○県の平均を1.5ポイント上回った。 ○ほとんどの設問において県平均を上回っており、13.3ポイント上回った設問もある。 ●オーストラリアに関する設問が県の平均を下回っている。 ●アフリカに関する設問が、県の平均を10ポイント以上下回っており、理解が不十分である。	・年度末に感染拡大した新型コロナウイルスの影響が考えられる。履修が不十分であった生徒への補習授業などを行っていく。 ・AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を根気強く図っていく。
歴史	○県の平均を1.5ポイント上回った。 ○約半分の設問において県の平均を上回っており、10ポイント以上上回っている設問もある。 ●約半分の設問で県の平均を下回っており、10ポイント以上下回っている設問もある。 ●古代ギリシャに関する理解が不十分である。	・発問や授業構成を工夫し、時代を大局的にとらえ、歴史の流れをつかめるような授業を実践する。 ・AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を根気強く図っていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	54.6	58.6	57.2
	図形	46.6	52.6	51.1
	関数	45.3	48.2	46.8
	データの活用	52.3	56.1	54.1
観点	知識・技能	55.8	60.2	58.6
	思考・判断・表現	38.9	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

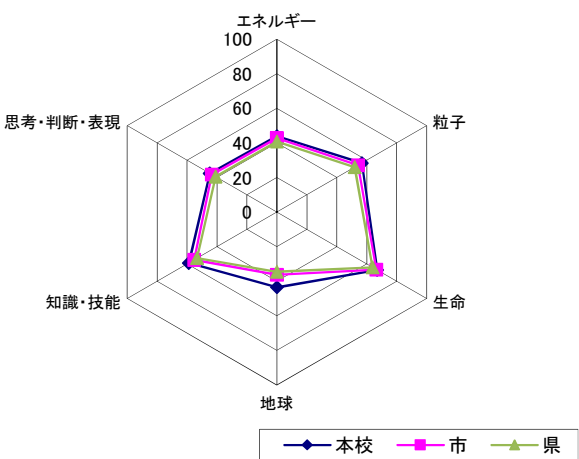
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○負の数の減法ができるかをみる問題では、県を4.5ポイント、市を3.6ポイント上回っている。 ●正答率は、県を2.6ポイント、市を4.0ポイント下回っている。 ●絶対値について理解しているかを問う問題では、市や県を13ポイント近く下回っている。	・計算力の向上を図るため、計算をはじめとする基本的な問題演習の時間を、授業の最初に設定する。 ・用語の持つ意味などの定着のために、授業の振り返りで、その用語を用いて自分の言葉で書かせるなどの工夫を図る。 ・論述問題に取り組む場面を設定し、自分の考えを数学的な用語を用いて表現する場面を授業の中で積極的に取り入れる。
図形	○垂直二等分線の性質を理解し、作図することができるかをみる問題では、県を0.9ポイント上回っている。 ●正答率は、県を4.5ポイント、市を6.0ポイント下回っている。 ●底面が合同な正四角柱と正四角錐の体積の関係について理解しているかを問う問題では、市や県を10ポイント近く下回っている。	・ICTを活用し、図形を自ら動かして、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。 ・生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じて主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。
関数	○与えられたグラフから、求め方を説明したり答えを求めたりする問題では、市や県の正答率を上回っている。 ●正答率は、県を1.5ポイント、市を2.9ポイント下回っている。 ●与えられた関数の表からyがxに比例している表を選ぶ問題では、市や県を8ポイントほど下回っている。	・授業の導入で、1年次の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。 ・日常生活と関連付けた内容のレポート等を作成する学習活動を取り入れ、グラフの書き方や式の求め方を考えさせる。 ・表と式とグラフの相互の関係性を授業内でしっかりと確認し、関数の概念を獲得できるようにする。
データの活用	○ヒストグラムから最頻値を求めることができるかをみる問題では、県を1.1ポイント上回っている。 ●正答率は、県を3.8ポイント、市を1.8ポイント下回っている。 ●度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明する問題では、正答率が市や県を4ポイントほど下回り、無回答率も3ポイントほど上回っている。	・実力テストの前や後の効果的なタイミングで復習を取り入れ、定着を図っていく。 ・グラフやヒストグラムの特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	43.9	42.8	40.8
	粒子	56.8	54.2	52.0
	生命	67.0	66.4	63.8
	地球	43.5	36.2	34.5
観点	知識・技能	58.8	55.2	53.3
	思考・判断・表現	44.9	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

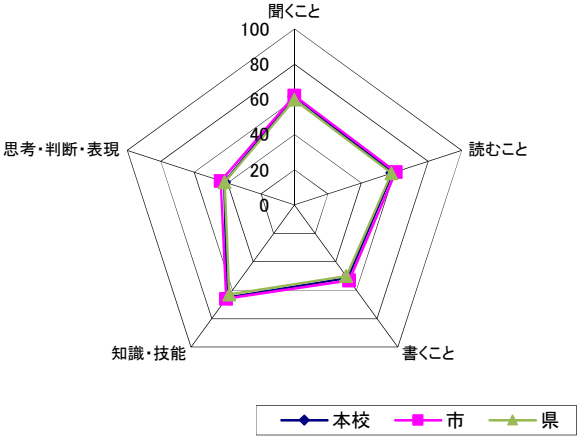
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○スクリーンにうつっている像を選ぶ問題で県平均より15.0ポイント上回った。像ができる原理を理解している生徒が多いと考えられる。 ●音の波形を選ぶ問題で県平均より2.5ポイント下回った。音の高さ、強さにおける波形の違いについて理解できていない生徒が多い。	・光の単元では実験に意欲的に取り組み、よく考えてできていた。光の現象を取り上げ、身近な事象に対して探究していく力を身につけさせていく。 ・音の単元では、音の波形と音の高さと強さを関連付けて考えられていない生徒が多いため、いくつかのデータ比較し考察させる時間を授業に取り組んでいく。
粒子	○二酸化炭素を発生させる方法を選ぶ問題では、県平均より12.5ポイント上回った。気体の発生について整理できている生徒が多いと考えられる。 ●再結晶における計算問題で、県平均より0.7ポイント下回った。粒子における他の単元の計算に比べて、再結晶関連の計算問題を苦手としていると考えられる。	・気体の発生方法、性質についての基礎的な知識は定着しているので、知識を応用して仮説を立てたり、考察したりする場面を取り入れ、考える力を伸長する。 ・計算問題の中でも、グラフから読み取り計算する問題において正答率が低かった。授業でグラフを書く時間を作り、グラフから読み解く力を養っていく。
生命	○昆虫類ではない動物を選ぶ問題で、県平均より11.0ポイント高かった。動物の分類について理解できている生徒が多いと考えられる。 ●正しいスケッチを選ぶ問題での正答率が県の平均より7.6ポイント低かった。正しいスケッチを書く方法が整理できていない生徒が多いと考えられる。	・植物や動物に興味がある生徒が多く、分類も得意としている。知識量が豊富な生徒も多いため、対話的な学習を促し、生徒間で学び合う場面設定が有効であると考えられる。 ・スケッチや、顕微鏡の基礎的な操作に関して、正しく理解できていない生徒が見られるため、再確認し正しい操作で観察を行っていく。
地球	○示準化石の名称を答える問題で、県平均より27.6ポイント上回った。 ○地層の特徴から昔のようすを考える問題で県平均より14.0ポイント上回った。地層のデータから過去のようすを読み解く力があると考えられる。 ●マグニチュードと震度について答える問題で、県平均より2.9ポイント下回った。	・地層や化石に関して興味関心が高い。実際の地層の様子や化石を提示することで、身近な大地にも興味関心を引き出していく。 ・地震に関しては、基礎的な内容を見直し、グラフから読み取り、計算する問題への応用をしていく。演習時間を多く設け、補充学習に取り組まさせていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.7	62.0	59.7
	読むこと	58.6	60.6	58.0
	書くこと	51.5	53.1	50.1
観点	知識・技能	65.3	66.0	63.0
	思考・判断・表現	42.0	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全体の正答率は県を2ポイント上回っている。 ●全体の正答率は市を0.3ポイント下回っている。 ○対話の内容を聞き取って適切に応答したり、英文の概要や要点を聞き取ったりする設問の正答率が高い。 ●英文を聞き取って、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える設問の無回答率が高い。	・聞くこと、話すことの言語活動で、文法事項についての知識・理解を深める活動だけではなく、考えや気持ちを伝え合う活動(「コミュニケーションを図る活動」)もバランスよく行い、相手の意図を理解し、適切に応答する力を高める。
読むこと	○全体の正答率は県を0.6ポイント上回っている。 ●全体の正答率は市を2ポイント下回っている。 ○英文から必要な情報を読み取ったり、概要を理解したりする設問の正答率が高い。 ●対話から必要な情報を読み取る設問の正答率が低い。	・様々な対話文を読んだり聞いたりし、その内容について問答することで、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、必要な情報、概要、要点を捉える力を高める。
書くこと	○全体の正答率は県を1.4ポイント上回っている。 ●全体の正答率は市を1.6ポイント下回っている。 ○正しい語形や語法を選ぶ、正しい語順で書くといった知識・技能を問う設問の正答率が高い。 ●対話の流れに沿ってつながりのある英文を書くといった思考・判断・表現を問う設問の正答率が低く、無回答率も高い。	・書くことの言語活動で、相手に「伝えたい」という場面設定を工夫してつながりのある英文を書かせたり、毎時の授業において、表現を豊かにするための単語やフレーズを読んだり書いたりする活動を継続して行うことにより、英文を書くことへの苦手意識を軽減し、流れに沿ってつながりのある英文を書く力を高める。

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

生活について

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」という質問の肯定割合が86.1%と、栃木県平均よりも約5%割合が高い。また、「地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある」という質問での肯定割合は77.3%と栃木県平均よりも7%割合が高い結果となった。このことから、日頃からニュースなどから情報を得ようという意識があることがわかる。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)。」という質問と「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームは除く)。」という質問で県平均より、テレビを見ている時間や、スマホ使用時間が長いことがわかる。情報を得ようとする情報元がスマートフォンやテレビであり、新聞を読んでいる割合も10%程度にとどまり、その使用法や使用時間の節制が今後の課題と考える。

学習について

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問に対して「はい」と回答した生徒は54.1%おり、県の平均を上回っている。学習の意義について理解している生徒が多いので、学習意欲の向上につながるものと思われる。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に対して「はい」と回答した生徒は43.8%おり、県の平均を上回っている。また、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」質問に対して「はい」と回答した生徒も県の平均を上回っている。勉強の楽しさや未知の事象に関する興味が学習への意欲へとつながるので、授業において生徒の興味関心にあわせた学習ができるような機会を設けていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで取り組んでいる」、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に対して「はい」と回答した生徒は県の平均より10ポイント下回っている。話し合い活動を苦手としている生徒が多いが、自分の意見を相手に伝える経験を積むことが必要である。今後も授業において対話的な活動を積極的に取り入れていきたい。また、よい考えをもっているが、自分に自信がないために発表できない生徒もいるので、授業中だけでなく学校生活全体を通して自己肯定感を高められるような指導をしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びの場面での「めあて、振り返り」活動の充実。	・自主学習ノートにも「めあて、振り返り」を記入することで、自己の学習の理解度を客観的に確認させている。 ・各授業で「振り返り」を継続して行うことで、学習の理解度に応じた復習を行わせている。	・「授業の中で目標が提示されている」の質問に対して、「はい」と回答をした生徒は70.6%で、市の平均を5.8ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という質問に対して「はい」と回答した生徒が51.6%で市の平均を10ポイント下回っている。	心理的安全性の構築と話の聞き方の再確認。	・教室内の心理的安全性を高めるために、学級活動などでエンカウンターを実施する。 ・国語科の授業を軸として、話の聞き方についての基本的事項について確認する。